2023/07/01

川崎支部便り　第 66 号　（2023 年 7 月）
オープンで各自が主役：川崎支部

川崎支部支部長　山岸一雄　（執筆：松本・山岸）

人生を豊かに（雑学のすすめ）

【一日の歩行は平均 19,000 歩？】

総合研究大学院大学学長　長谷川眞理子によると、人類は、その進化史の 99%以上の時間を、狩猟採集生活者として過ごしてきたそうです。男性が狩猟に行くのは、週に 3、4 日程度ですが、女性の採集活動は毎日です。こうした暮らしで彼らは毎日何歩歩いているのでしょうか。

タンザニアに済む狩猟採集民であるハッザの人々の研究では、男性は一日平均 19,000 歩。女性は 16,000 歩でした。これは「平均」なので注意が必要です。男性は週に 3，4 日しか狩猟に行かず、女性も。近くで採集が終わる日も、そうでない日もあります。その平均がこの数字です。

皆様は、毎日平均何歩歩いているのでしょうか。車を使用したり事務所での仕事では、一日 1,000 歩くらいかもしれません。狩猟採集生活のあいだには、メタボ、心臓病や高血圧も非常に少ない様です。彼らが直面しているのは、栄養失調や飢餓であり、私たちとのリスクは異なります。

文明が興り、様々な製品が発明され、肉体労働を少しでも削減できた挙句が、現代の生活です。この生活が様々な病を引き起こしているのではないでしょうか。

（PHP VOICE より）

川 崎 点 描 ： 川崎支部活動拠点

【部活仲間とのつながり、その後の話題】　担当：松本　浩一（1984 年 機械工学科卒）

■受けた施しは後輩に施すー先輩の面倒見の良さが伝統

東京都市大学（武蔵工業大学）に体育会アイスホッケー部があることをご存知でしょうか。
東京都アイスホッケー連盟に加盟している大学でも古い方で来年 2024 年には創部 65 周年を迎えます。数多（あまた）の OB・OG（300 人以上）が多方面で活躍しています。

60 周年の集合写真

私は 1984 年の卒業なので古い方になりますが、それからも 40 年近く続いていることを誇らしく思います。先輩の面倒見の良さが伝統であり、「受けた施しは後輩に施す」ことで先輩を敬い、後輩を可愛がる歴史が繰り返されることによって繋がっているのだと思っています。

チームメンバーの大半が大学に入ってからスケートを始め、小・中・高でアイスホッケーを経験しているのは一学年に一人くらいと僅かです。経験者がいない世代もあり、サッカーでは歩くことから始めるようなものです。当然、経験がない初心者は厳しい練習を乗り越えないと試合には出られませんし、大きな怪我をします。私は先輩、同期、後輩に経験者がいたので、それが刺激となり頑張ってこられました。

2023/07/01

スケートリンクを貸し切っての氷上練習と 18 号館前の多摩川沿いでの陸トレ、スケート場の一般営業中にひたすら滑るフリスケがありました。どの練習も厳しく、特に冬合宿は写真ではその辛さが伝わりませんが、屋外の天然氷の仮設リンクで日の出から日の入りまでひたすら滑っていました。疲れ切って防具を着用したまま寝てしまう者もいて、それによって上達できたと思います。一方では学内で当時体育祭や水泳大会（当時はプールがありました）が行われ、部でエントリーして写真のような格好で仲間を応援し、上位入賞で獲得した賞品のビールでの打ち上げは、もちろん大盛況でした（今では考えられないことですね）。

冬合宿の集合写真（1 年生の時）

体育祭の応援スタイル

体育祭の戦果

■卒業後も続けられる環境とは

先日自分が 1 年生で入部した時の 4 年生の号令で 4 学年が集合しました。（写真：81-84REUNION）

81-84REUNION

比較的顔を合わせている先輩と、卒業以来顔を合わせていなかった先輩が集まりました。私の同期の一人は、現在インドネシアで勤務しているにもかかわらず、参加してくれました（彼の都合に合わせたのですが）。

私が入部した時の 4 年生のキャプテンとは卒業後も何かとお世話になり、毎年何度もお会いしています。その方は数年前に大病を患い、徐々に回復されて 100%ではないもののエネルギッシュに活動されています。今回も写真で何人かが着ているライトブルーの T シャツ（全員分）を、自らデザインして作ってくれました。4 年の幅があると前後で多少繋がりが薄いところができてしまっても、その繋がりがここまで続いているのだと思います。

せっかく始めたアイスホッケーを学生生活の 4 年で終えてしまうのは残念だという思いから、私より 13 年先輩の方が卒業後も続けられる環境を作っておきたい思いで、「バッカス」という社会人チームを創設してくれました。そのチームは東京都の社会人チームとして登録し、年 2 回の大会に参加しています。上下関係はあるものの、学生時代よりは緩くアイスホッケーを楽しんでいます。現役学生との OB 戦は恒例行事で、OB と現役との交流の場となっています。

OB 戦の集合写真　緑：OB　青：現役学生

母校のアイスホッケー部がこれからも存続していくように繋がりを大切にしていきたいと思います。

■川崎市とスポーツ

川崎はかつて公害の町というイメージが強かったのですが、最近は音楽の街だったり、武蔵小杉など住みたい街だったりと名を上げています。一方スポーツもとても盛んで、昨年のサッカーW杯では三笘（みとま）選手、田中選手などが活躍されたことは記憶に新しいと思います。

川崎市を本拠地としているチームにはサッカーJ リーグ、バスケットボール B リーグ・W リーグ、バレーボール V リーグ、アメリカンフットボール X リーグと多数あり、その他にも卓球、ボクシング、プロレス、ビーチバレーの団体が活動しています。

川崎市にはスケートリンクがなく、環境が整っていませんが、(マイナースポーツの) アイスホッケーでは、実はお隣の横浜市に「横浜 GRITS（グリッツ）」というアイスホッケーチームがあり、新横浜のスケートリンクを本拠地としてアジアリーグに参戦しています。

このチームはアイスホッケーだけでは生活もままならないシビアな現実に道を阻まれ、多くの才能が埋もれる残念な状況を打開したい、アイスホッケーを野球、サッカー、バスケットボールに並ぶ、メジャーなプロスポーツにしたい、この競技に情熱を注ぐ次世代や現役アスリートたちが夢をもってプレイできる環境を整えたい、という思いから立ち上げられました。選手スタッフのほとんどは二足の草鞋を履く状況で、選手と他の仕事を両立しています。「デュアルキャリア」を通じて、スポーツのみならず、ビジネスでも活躍する人材を育成しています。

■横浜 GRITS 泉翔馬選手のコメント

この度、税理士法人ユナイテッドブレインズに入社しました泉翔馬です。現役選手として活動しながら簿記 2 級を取得し、今回このような形で以前から興味のあった会計や税務の仕事とホッケーを両立させていただける環境を与えてくださった小林先生や事務所の方々、そして横浜 GRITS には大きな恩を感じております。

仕事とホッケーの両立は大変ですが、それ以上にやりがいを感じており充実した日々を過ごさせていただいています。より一層皆さまから応援していただけますよう、精一杯頑張っていきたいと思います。応援よろしくお願いいたします。

アイスホッケーだけではないと思いますが、私は厳しい環境でもしっかりとしたコンセプトを持って活動しているチームを応援していきたいと思います。

皆さんも応援して下さい。

都市大アイスホッケー部の HP を見て下さい。

SCHEDULE | 東京都市大学アイスホッケー部公式 HP (tcuicehockeyhp.wixsite.com)

支部の活動

① 2023 年 4 月 22 日（土）理工学部 白木教授による校友会 10 周年タイアップ事業の川崎支部企画の第 2 弾、第 23 回定例講演会を開催しました。「本学の創立の経緯と建学の精神」で知られざる裏話が聞かれました。

以下は動画のリンクです。クリックすると視聴出来ます。

2023/07/01

https://youtu.be/18kr1fqlbvo

②2023年7月22日（土）は夢キャンパスで第24回定例講演会「川崎を詳しく知ろうー公害の町から住みたい街へ　武蔵小杉周辺の開発」（14時から）です。講演者は、元川崎市役所 まちづくり局　施設整備部 部長 木村弘一（建築OB－1984年卒）です。無料です。

ご存じですか

【日本の教育界の国宝　東井（とうい）義雄とは？】

哲学者森信三師をして、「日本の教育界の国宝」と言わしめた東井（とうい）義雄氏もまた、子供たちに根を養うことの大事さを説き続けた人です。その言葉が有ります。「根を養えば樹は自ら育つ」「高く伸びようとするには、まずしっかりと根を張らねばならない。基礎となる努力をしないと、強い風や雪の重みに負けてたおれてしまう」。

東井義雄は1912年（明治45年）、兵庫県豊岡市但東町（たんのうちょう）の浄土真宗東光寺の長男として生まれ、寺の檀家はわずか9軒でした。「私は日本一の貧乏寺に生まれた」と自ら書いています。姫路師範学校を20歳で卒業後、但馬（たじま）地方の小中学校に勤務しました。その熱意溢れる教育指導が評価され、47歳の時に広島大学から「ペスタロッチ教育賞」（ヨハン・ハインリヒ・ペスタロッチを研究し、戦後の教育に貢献した教育学者長田新を記念し、長田が教鞭をとった広島大学大学院教育学研究科が1992年に設立した賞）を受賞し、52歳の時に請われて生徒数700名の八鹿（ようか）小学校長になりました。東井校長と八鹿小学校の実践の素晴らしさが広く知られ、各地から多くの参観者が訪れるようになりました。

小学校一年生で母親を亡くし、その後の20年間に6つの葬式を出しました。東井少年はこの貧乏から抜け出すには勉強しなければと、小学校5年生修了時に中学進学を決意しましたが、父親から「とても進学させるゆとりはない。こらえてくれ」と泣きながら言われました。東井少年は3日3晩父親の枕元に座り続けて懇願し、「合格しても入学しない」という条件で受験することだけは許されました。必死の勉強が実って難関の試験は合格しましたが、授業料が要らない姫路師範学校に進学しました。この体験が人間東井氏の根っこを養ったのでしょう。

教育者としての東井氏を際立たせるのは、八鹿小学校長時代に発行し続けた「培其根（ばいきこん）」です。最初は教師が校長に提出する「週録」でしたが、すべての教師に知ってほしいことを取り上げ、そこに校長としての思いや願いを書き込み、自分でガリ版を切って謄写（とうしゃ）印刷しました。「培其根」は校長赴任の翌年から始まり、退職までの7年間に号を発行し、総ページ数は778頁に及びました。鉄筆を振るっての作業が深夜の1時、2時にまで及ぶのは再々だったそうです。

最後に、「培其根」に105人への色紙の言葉をご紹介します。

〇ほんものはつづく。つづけるとほんものになる。（早朝マラソンを続けている女子生徒に贈ったことば。）　〇あすがある。あさってがあるとかんがえている間はなんにもありはしない。かんじんの「今」さえないんだから。　〇自分は自分の主人公。世界でただ一人の自分を創っていく責任者。　〇問題に追いかけられるのではなく、問題を追いかけていく。　〇一を粗末にしては二には進めない。三、四、五、六、七、八まで進んでも、まだ。九（苦）を越えなければ、十の喜びはつかめない。　〇意味というものは、こちらから読み取るものだ。ねうちというものは、こちらが発見するものだ。すばらしいもののなかにいても意味が読みとれず、ねうちが発見できないなら、瓦礫の中にいるようなものだ。

2023/07/01

　人間の根を養う要諦が東井語録には満ちている。
（致知より）

皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。
（連絡先：kawa_matsu51@v00.itscom.net　松本幹事長宛）